

第18回 1・17 震災フォーラム

～阪神大震災そして東日本大震災を私たちのまちで繰り返さないために～
東海地方に迫りくる巨大地震に備える

2014年1月11日(土)名古屋国際会議場会議室で開催。阪神淡路大震災を契機として始まったこのフォーラムは18年目を迎え、今回は3.11東日本で起きた空前の津波被害を分析し東海地方での対策を検討する場になった。参加者は約60名。行政・市民・自治会長・労組など多彩なメンバーが集まった。主催は1・17震災フォーラム実行委員会(CANも参加)。



復興が遅い！

冒頭あいさつで木股文昭実行委員長(東濃地震科学研究所)は、東日本の復興遅れについて、防潮堤などの建設が先行されているが被災者の帰還・地域の復興は進んでいない。インドネシアのアチェでは津波被害から2年で住民の帰還が終わり知事選挙を行えるまでになった。それと比べると大変遅いことを指摘し早く帰還・復興ができる施策が求められているとした。

非難決断に「心のワナ」がある！

NHKスペシャル「巨大津波 その時ひとはどう動いたか」の取材を行った大島隆之さん(NHKエンタープライズ・ディレクター)は、取材を行う中で、避難行動をとるかとらないかは人間の心理が大きく影響していたことが分かったと説明した。心のワナ=人間は非難したがらない、危険に気づかない生物

大島さんは取材の傍ら宮城県名取市閑上(ゆりあげ)地区(1000人以上の津波被災者を出した)で地震後1時間の行動調査を行い600名(地区生存者の90%)の聞き取りを行ったという。

地震振動では建物に壊滅的被害はなかった

たまたま撮られた写真によれば商店街はガラスなどの散乱、店舗商品の被災は見られるものの阪神淡路震災のような1Fがつぶれたビル、被災瓦礫でふさがれた道路という状況ではなかった。直下型地震との違いのようだ。

津波被災者は沿岸部が多いということではない

被災者住所の分布図を作成してみると、沿岸部よりむしろ内陸部のほうに被災者が多い傾向が見えた。内陸が故の油断があったのかもしれない。なぜ逃げなかった?～避難の決断は大きな決心が必要。住民は逃げたくないというもとの気持との葛藤があることを防災関係者は認識する必要